

学校・家庭・地域が一緒になって小鹿野の子を育てます

夢と志をはぐくむ小鹿野教育

小鹿野町学校教育ビジョン

＜計画期間 平成27年4月～平成31年3月＞



平成27年3月
小鹿野町教育委員会

目次

はじめに	1
I 小鹿野町教育ビジョンの基本的な考え方	1
1 これからの子供に求められる力	1
2 小鹿野町の子供の現状と課題	1
(1) 「全国学力・学習状況調査」・「埼玉県小・中学校学習状況調査」の結果から	
(2) 「新体力テスト」の結果から	
(3) 子供たちを取り巻く環境の変化	
II 小鹿野町の教育が目指すもの	3
1 教育理念	3
2 基本目標	3
3 学校教育の将来像	3
(1) 目指す子供像	
(2) 目指す学校像	
(3) 基本方針	
III 重点的な取組	4
1 確かな学力の育成	4
(1) 小中一貫教育の視点に立つ教育の推進	
(2) 個に応じた指導の充実	
(3) 教職員の資質向上	
(4) 職員の配置による学力向上への取組の充実	
2 自立し周囲と協調できる社会性の育成	6
(1) 自治・自立に向けた態度の育成	
(2) 社会体験・ボランティア活動の充実	
(3) 地域の教育力の活用	
3 グローバルな視点を持ち夢の実現に向かう活力の育成	6
(1) グローバル人材の育成を支える基盤整備	
(2) 9年間を見通したキャリア教育の推進	
(3) 授業を通じた主体性・協調性・チャレンジ精神の育成	
(4) 郷土小鹿野に根ざした教育の推進	

4 豊かな人間性と健やかな体の育成 **8**

- (1) 道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実
- (2) 人間関係づくりの推進
- (3) 幼児教育との円滑な接続の推進
- (4) 健康教育の推進

5 学校の再編整備(教育施設整備グランドデザインの推進) **9**

- (1) 幼稚園・中学校の統合
- (2) 小学校教育の充実
- (3) 学校統合に関わる取組

【資料】教育ビジョンを踏まえた具体的な取組について(解説) **11**

はじめに

今日、我が国を取り巻く環境は大きく変化し、それに伴う様々な課題に直面している。また、日本創成会議の人口減少問題検討分科会が、2040年には、「若年女性の流出により全国の896市区町村が消滅の危機に直面する」という試算結果を発表した。これは、将来的に地域の崩壊や自治体運営の行き詰まりが懸念されるものであり、まさに憂慮すべき状況である。

そのような中で、子供たちが、これからの社会を生きていくために必要な「生きる力」を身に付けることが求められ、さらに、地域の一員としてその力を社会の中で生かしていくことが求められている。子供たちの日本人として必要とされる資質とは何かを見極め、望ましい社会の創造に向けて行動することのできる力を育成していくことが、現代教育の大きな課題となっているのである。

現代は子供たちにとって、明るい展望に立った「夢」を持ちにくい時代である。だからこそ、本町では「未来を拓く夢と希望と勇気を育む小鹿野教育」を基本理念として位置付け、地域に根ざし、地域を拓き、地域から未来を担う人材の育成に向けた取組を積極的に推進していきたいと考える。

そのために、子供たちの的確な現状把握に基づいた、将来を見通した育成指針としての小鹿野町学校教育ビジョンを策定する。

一人一人に必要な資質・能力を伸展させ、確かな自己実現を果たすことができるよう、意図的・計画的に育成していくことが、子供たちの生涯を幸せなものにするとともに、町を興し、豊かな社会をつくることにつながるものと考え。まさに「町づくりは人づくり」に直結するものである。

I 小鹿野町教育ビジョンの基本的な考え方

1 これからの子供に求められる力

知識基盤社会の到来やグローバル化の進展により、アイデア等の知識そのものや人材をめぐる国際競争が加速するとともに、異なる文化との共存や国際協力の必要性が増大している。また、行き過ぎた個人主義の風潮や社会全体のつながりの薄れ、異なる価値観等を持った人々との交流や各種体験の減少等を背景とする規範意識や社会性などの低下傾向は、将来的な課題としても懸念されることである。

このような社会を生きていく子供たちには、自ら課題を発見し解決する力、物事を多様な観点から考察する力、様々な情報を取捨選択できる力が求められている。

さらに、これからの社会を支える人材に共通して求められる資質として、幅広い教養と深い専門性、チームワークと異質な者の集団をまとめるリーダーシップ、公共性・倫理観、メディアリテラシー等が挙げられている。また、グローバル人材の育成に向けて、我が国と郷土に対する誇りを持ち、世界的な視野と多様な文化と共生し能力を発揮する力を身に付けることも必要である。それらの基盤として、小中高を通じたコミュニケーション能力・英語力等の育成が求められている。

2 小鹿野町の子供の現状と課題

(1) 「全国学力・学習状況調査」・「埼玉県小・中学校学習状況調査」の結果から

文部科学省が実施する「全国学力・学習状況調査」や県が実施してきた「埼玉県小・中学校学習状況調査」の結果から、本町の子供の現状を見ると、基礎的・基本的な知識

・技能の習得に一部課題があるとともに、知識・技能を実生活の場面に活用する力や読解力等にも課題があることが明らかになった。特に、全教科の学びの基盤となる言語能力（読解力・表現力）の面で、基礎的・基本的内容が身に付いていない傾向が見られ、改善すべき課題となっている。

質問紙調査の結果については、「朝食を毎日食べる」、「地域の行事に参加している」や「いじめはいけないことだと思う」等は高い割合を示しており、学力テストだけでは測れない素晴らしい長所をもっている。その反面、「テレビゲームをする時間」や「テレビやDVDを見る時間」が県や全国と比較して多く、「学校以外での学習時間」が全体的に少ない傾向にあり、生活習慣や学習習慣について課題となる点が見られる。

(2) 「新体力テスト」の結果から

小学1年生から中学3年生を対象として実施した、平成26年度「新体力テスト」（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ボール投げ）の調査結果を見ると、男子が62.5%、女子が83.3%の項目で県平均値を上回った。男女合計では、72.9%の項目で県平均値を上回っている。これは、日頃からの町内各小・中学校における体力向上への取組の成果と言える。

具体的には、男子では、長座体前屈について、県平均値を上回った項目数が80%を超えている。

女子では、長座体前屈、反復横とび、ボール投げ、20mシャトルラン（小学生対象）について、県平均値を上回った項目数が80%を超えている。

しかし、男女共通して持久走（中学生対象）、また男子では50m走が課題の残る結果となっており、継続して改善に取り組む必要がある。

※項目：1種目について各学年ごとにカウントしており、全体で72項目となる。

(3) 子供たちを取り巻く環境の変化

近年、全国的に急速に進む少子化は、子供たちの生活に様々な影響を与えている。

他の要因も重なるのであろうが、コミュニケーションを図ることや、主体的な判断が不得意であったり、対人関係の構築が苦手であったりする子供が増えている。

本町では、地理的な面からも近所で遊べる子供が減少し、一人遊びをせざるを得ない状況があり、その結果、長時間のテレビ視聴やゲームに時間を費やす子供が少なくない。そうした生活に起因する実体験の減少は、結果的に子供たちの心の成長にも様々な弊害をもたらしている。

山間地の多い本町の少子化は急速に進行しており、地域・家庭・学校が力を結集して子供たちの育成に努め、地域のよさや協働の喜びを感じるとともに、多様な見方・考え方や価値観にふれる体験を積み、「夢と希望と勇気」を育てていくことが必要である。

【学校別児童数の推移（見込）】

平成26年4月1日現在

年 齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳
学 年	—	—	—	—	—	—	小1	小2	小3	小4	小5	小6
小鹿野地区	38	38	54	47	46	59	67	62	56	64	62	68
倉尾地区	1	0	0	1	0	4	1	1	4	1	2	2
長若地区	8	9	10	11	10	13	9	7	13	14	12	10
三田川地区	7	9	7	12	7	13	14	13	19	12	15	13
両神地区	11	9	11	18	24	20	16	16	14	17	16	14
全 体	65	65	82	89	87	109	107	99	106	108	107	107

Ⅱ 小鹿野町の教育が目指すもの

1 教育理念

未来を拓く夢と希望と勇気を育む小鹿野教育

2 基本目標

ふるさとの明日^{あす}を担う心豊かな人づくり

3 学校教育の将来像

(1) 目指す子供像

郷土小鹿野に誇りを抱き^{いだ} 確かな「人間力」を身につけた子供

〔人間力について〕

人間力に関する確定された定義はないが、ここでは「地域社会に積極的に参加し、周囲と協調しながら社会的貢献を果たすとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」ととらえることとする。その実現に向けて、小鹿野町の学校で学ぶすべての子供たちに

- ① 確かな学力 ② 社会性 ③ 夢に向かう活力 ④ 心身の健康
を育んでいきたい。

(2) 目指す学校像

未来に向かう夢と志を育む学校
子供の可能性を伸ばす質の高い教育を提供する学校
地域の信頼に基づく安全で安心な学校

(3) 基本方針

- 1 確かな学力の育成
- 2 自立し周囲と協調できる社会性の育成
- 3 グローバルな視点を持ち夢の実現に向かう活力の育成
- 4 豊かな人間性と健やかな体の育成
- 5 学校の再編整備（教育施設整備グランドデザインの推進）

Ⅲ 重点的な取組

1 確かな学力の育成

学力向上は、人間力育成の根幹となる課題であり、国や県としても喫緊の課題と位置付けており、本町においても、同様の現状と捉えている。

子供たち一人一人の知識・技能の習得はもとより、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を含む「確かな学力」を育成し、生涯にわたり学習する基盤を培うことが学校教育の役割である。そこで、少人数指導などの充実のもとより、「全国学力・学習状況調査」、「埼玉県学力・学習状況調査」の結果の分析・活用等を通して、日々の授業の質的改善に取り組み、子供たちの学力向上を図る。

(1) 小中一貫教育の視点に立つ教育の推進

義務教育9年間の連続した学びを構成することを目指し、小中一貫教育の視点を導入した取組を推進する。「中1ギャップ」等学校間接続の課題解消の必要性が指摘されている中、子供たちの確かな成長に向けた、より積極的な観点からの取組を進める。

ア 学びの基盤としての小学校教育の充実

小学校における学習や生活の習慣は、その後の学校生活に大きな影響を与える。幼・保・小・中の連携を深め、学びの基盤づくりとしての小学校教育の充実を図る。

- 生活習慣・学習規律の定着と補充指導の徹底
- 学習指導員や生活指導補助員の活用による、個に応じた学びの充実
- 家庭と連携した家庭学習の習慣化
- 小規模校における効果的な指導方法の研究と職員の配置
- 高学年における教科担任制の研究

イ 全校共通研究課題の設定

町内全小・中学校において、小中一貫教育の視点に立つ教育の推進について、共通研究課題として設定する。中学校の統合もあり、各小学校地区のよさを生かすとともに、連携と相互理解に立った、継続的・発展的な教育活動を推進する。

- 町内全校共通研究課題の設定及び研究委嘱
- 小・中共通の目指す子供像、重点目標の設定と実現に向けた具体的な手立ての共有
- 小・中情報連絡会の実施による情報の共有
- 小・中学校教員の授業における相互交流の推進

ウ 9年間を見通した学習意欲・学習習慣の育成

学力の向上には、学校の努力はもちろんだが、家庭の理解のもとに、学校と家庭の一層の連携を図ることが不可欠である。学習意欲・学習習慣の定着については、「全国学力・学習状況調査」においても、本町の子供たちには課題が認められ、その改善に向けては家庭・地域の力を結集した取組が求められる。

また、小中一貫教育の視点に立ち、義務教育9年間を見通した継続的な学びの構成と、その基盤となる学習の意義を踏まえた学習意欲・学習習慣の定着に向けた取組を推進する必要がある。

- 「全国学力・学習状況調査」、「埼玉県学力・学習状況調査」における「質問紙調査」の結果を生かした児童生徒の実態把握と、必要な改善に向けた指導の推進
- 子供たちの発達段階に応じた、学習習慣の定着に向けた継続的・発展的な取組
- キャリア教育を通じた、将来展望と学習の意義についての理解の深化
- 望ましい生活習慣の定着に向けた家庭への啓発と連携
- PTAと連携した「おがの家庭教育宣言」の策定

(2) 個に応じた指導の充実

確かな学力を身につけるためには、個に応じたきめ細かな指導、繰り返し学習や、興味・関心に応じた学びの機会を保障することが大切である。小規模校の良さを生かした指導を一層工夫し、推進していく必要がある。

- 一人一人が学ぶ意欲を持ち、学ぶ喜びが味わえる授業づくりの推進
- 少人数指導やT Tによるきめ細かな個に応じた学習の展開
- C R Tテストの活用及び学習指導員による補充指導の充実
- 地域人材の活用による補充・発展的指導等の実施（特別非常勤講師の活用）

(3) 教職員の資質向上

子供は教師の姿を見て学ぶものである。学力向上に向けては、教師自身が学び、自らの資質を向上させる姿勢が欠かせない。新たな教育課題への対応とともに、学級づくりや日々の授業改善に向けた研修を適切に設定し、推進していく。また、共通研究課題への取組等、各学校の校内研修充実に向けても積極的な支援を行っていく。

ア 町内若手教員研修等の実施

「教育は人なり」は、現代においても不変である。教職員の育成は、教育委員会としても重要な責務である。若手教員が増加する状況の中、学校教育指導員や学校教育相談員等を活用して様々な機会を捉え、研修機会を増加し、特に若手教員の育成を推進する。

- 町内若手教員を対象とした「学級づくり・授業力向上研修」の実施
- 学校教育指導員、学校教育相談員を活用した授業研究・校内研修の支援
- 中堅教員に対する、学校運営参画に向けた資質向上研修の実施

イ I C T教育研修の推進

変化の激しい社会に対応するために、子供たちの科学技術や情報化等に対する興味・関心を高め、自ら積極的に課題を解決しようとする意欲や態度を育む教育を推進する。そのために必要なI C T教育推進に不可欠な施設・設備の充実と共に、教師自身の指導力向上を図るための研修を充実していく。

- 先進校への職員派遣による視察研修の実施
- デジタル教科書、電子黒板等を活用した授業の推進

ウ 未来を拓く「学び」に向けた取組の推進

県が推進する「未来を拓く『学び』推進事業」の趣旨を踏まえた積極的な取組を進め、新たな「学びづくり」に向けた手立てや情報を共有していく。

- 「学び合い」を主体とした授業構成の研究とその成果の共有
- 個に応じた主体的な学習に向けたI C T機器・教材の活用
- 県立総合教育センター等の関係機関との連携

(4) 学力向上に向けた職員の配置

学習指導員、生活指導補助員の一層の活用を図り、事務処理等の一部を分担するなど、教員の負担を軽減して、教員が子供を指導したり、ふれあったりする時間を確保する。また、学校司書を配置し、学校図書の本数整備、朝読書や読み聞かせ活動の充実、家庭での読書の推進、お勧めの本紹介等、学力向上の基盤としての言語能力向上に向けた読書活動の推進を図る。

- 学習指導員、生活指導補助員の活用による、教員と子供のふれあいや指導時間の確保
- 学校図書室の充実（標準冊数整備）と学校司書の配置による利用促進
- A L T、I C T支援員の集中配置による授業の改善・充実

2 自立し周囲と協調できる社会性の育成

教育には、子供たちを現実の社会に対応する人間に育てる営みと、現在の社会を維持・発展させ、未来社会を創造する人間に育てる営みの2面がある。子供たちを、自らの力で人生を切り開き、幸福な生涯を実現するとともに、社会の中で役割を果たすことのできる人間に育てるためにも「生きる力」を伸ばす教育が求められている。

人口減少が進む本町としては、子供たち一人一人に町民として「地域社会の活動に積極的に参加し、周囲と協調しながら社会的貢献を果たす」態度の育成が欠かせない。全町民の力を結集し、「ふるさとの明日を担う」人材の育成を推進する。

(1) 自治・自立に向けた態度の育成

児童・生徒会活動の充実を図るなど、日常生活を通して望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、自立的な態度を育てる。

- 児童生徒との協働を生かした学校づくりを通じた自治・自立の態度の育成
- 児童生徒の主体性を生かした学校行事等の創造的活動の推進(新たな伝統行事づくり)

(2) 社会体験・ボランティア活動の充実

社会性や「人のために」という態度を身に付けるとともに、勤労の価値や意味を実感するために社会体験・ボランティア活動等の一層の充実を図る。

- 社会体験チャレンジ事業や地域と連携した福祉体験活動の充実
- 地域活動への参加(歌舞伎をはじめとする郷土芸能、地域清掃等)
- 町・地域との連携・協働による継続的なボランティア活動への参加
- 夢や志をはぐくむ「ハートコンタクトプログラム」の推進

(3) 地域の教育力の活用

学校教育の目標を達成するためには、学校・家庭・地域が一体となった教育活動が欠かせない。特に、統合により学区の変更が伴う幼稚園及び中学校については、広域化する地域の理解を得るとともに、一層の連携を深める必要がある。

- スクールガードリーダーや学校応援団、安全ボランティア、子ども110番の家などによる子供たちを見守る活動の展開及び通学路の安全点検の実施
- 家庭との連携の深化及び各地域の教育力の積極的な活用
- 地域の学習拠点としての町立図書館との連携
- 子供を育む地域コミュニティづくり推進

3 グローバルな視点を持ち夢の実現に向かう活力の育成

知識基盤社会の到来、グローバル化の進展など急速に社会が変化中、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断や、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存など、変化に対応する能力が求められている。

2012年6月に開催された「グローバル人材育成推進会議」では、グローバル人材の要素として次の3点を挙げている。

- | | |
|-----|---------------------------------|
| 要素Ⅰ | 語学力・コミュニケーション能力 |
| 要素Ⅱ | 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感 |
| 要素Ⅲ | 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー |

これらは、先にも記したとおり、子供たちが学習を進める上での基盤ともなる、重要な点である。本町全ての学校で、あらゆる教育活動の中に適切にその方策を適切に位置づけ、子供たちが3要素を確実に身に付けるための教育活動を積極的に推進する。

(1) グローバル人材の育成を支える基盤整備

グローバル人材育成に向けては、これまで以上に物的・人的な環境を整備するとともに、あらゆる教育活動を通して意図的・計画的な取組が求められる。現状の把握・分析に基づき、積極的に教育環境の整備を推進する。

ア 英語力・コミュニケーション能力の育成

正しい日本語の習得を図るとともに、英会話のできる中学生の育成を目指して、発達段階に応じた学習の充実を図る。(卒業時英検3級合格者4割)

- 正しく美しい日本語を習得し、自分自身の考えを正確に伝え合う言語能力の育成
- グローバル化に対応した英語教育改革に向けた英語指導研修の推進
- 小鹿野町英語学力 CanDo リストの作成
- 幼稚園での英語ふれあい体験の推進 (ALTの活用)
- 小鹿野町英語検定チャレンジスクールの実施 (夏期休業中)

イ 情報収集・活用能力の育成(PC活用能力)

いつでもどこでも、ほしい情報を簡単に手に入れることができる時代だからこそ、情報を選択し活用する力を育てる必要がある。また、情報社会に参画する際のモラルや技術を身につけることも欠かせない。

- PC室・学習室・図書室を活用した調べ学習の充実
- ICT教材・備品の積極的活用によるPC活用能力の育成
- 確かなメディアリテラシーの育成

ウ 集中的な施設の整備

小鹿野町教育施設整備グランドデザインに基づき、教育施設の計画的・段階的な改善・整備を図る。また、それらを有効に活用できるよう、教職員の配置についても人材の確保・育成に努め、教育活動の充実を図る。

- 図書館司書の配置により、整備の行き届いた図書室への改善
- ICT教材等の教育備品の重点整備
- 安心・安全の確保と生活しやすい施設整備による活力ある学校づくりの推進

(2) 9年間を見通したキャリア教育の推進

子供たちが、将来夢を実現し、広い視野で物事を考え、個性を発揮しながら、グローバル社会の一員としてたくましく生きていくことができるよう、働くことの大切さや「人のために」役立つことの喜びを実感する体験活動や、自分を見つめ、自分の適性について理解を深める学習の充実に努める。

さらに、夢に向かう活力を育成するために、学校・家庭・地域が連携したキャリア教育の一層の充実を図る。

- 系統的なキャリア教育を推進し、学ぶことの意義理解、学習意欲の向上を図る
- 「わたしの志ノート」の継続的活用・蓄積による夢や志の育成
- 高校生活の理解と展望につながる小鹿野高校との連携の推進
- 社会体験チャレンジ事業や地域と連携した職場体験活動の充実

(3) 授業を通じた主体性・協調性・チャレンジ精神の育成

学校における教育活動の根幹となるのは日々の授業である。子供たちは、授業を通して、計画された学習内容だけでなく、様々な事柄を学習している。授業は、子供たちが「学び合う」大切な時間である。授業構成を見直し、日常的な取組を通して学習内容の確実な定着とともに、主体性・協調性・チャレンジ精神の育成を図る。

- 教員の「授業のあり方」に対する意識変革の推進 (アクティブ・ラーニングの視点)

- ・「聞いて理解する」から「協働し試行する」活動型授業への転換
 - ・「知識・技能の習得」から「習得した知識・技能の活用」に向けた授業への転換
- 子供たちの主体的に授業に取り組む態度の育成
- ・主体的な課題発見や解決能力、論理的思考力等を育成する授業構成の工夫
 - ・主体的な表現力と協調性の育成を図る活発なコミュニケーションの設定

【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた学習法。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、グループ・ワーク等も有効な方法である。

(4) 郷土小鹿野に根ざした教育の推進

本町は、長い歴史に育まれた伝統文化、豊かな自然などの教育資源に恵まれている。地域の人たちとの関わりを通して、地域のよさを知り、町の発展に積極的に関わろうとする態度と、郷土小鹿野に対する愛着と誇りを育む。

- 各小・中学校で取り組まれる地域学習や伝統文化活動の継承（小鹿野ふるさと学習）
- 多様な学習・体験を設定するための「総合的な学習の時間」の見直し
- 豊かな自然と地域の伝統文化を生かした地域学習の充実
- 学校行事における地域との連携の深化

4 豊かな人間性と健やかな体の育成

子供たちに基本的な生活習慣や規範意識を身につけさせるとともに、健康でたくましい心と体を育成していくことは、日々の生活を通じた学びや、学習の基盤となるものであり、将来、自立した生活を営む上でも欠かせないものである。

地域や家庭と連携して、子供たちにとって必要な環境と豊かな心のふれあい、様々な体育的活動に取り組む機会を保障していく。

(1) 道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実

現代の子供たちは、少子化や地域の教育力の低下などから、人間関係の希薄化など様々な課題が指摘されている。本町の子供たちも、過疎化が進む地域特有の課題が懸念されており、学校教育全体を通して道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実を図ることに努め、一層豊かな人間性を育てていく必要がある。

- 小中一貫教育の視点を生かした継続的・発展的な道徳教育の推進
- 「わたしたちの道徳」、「彩の国の道徳」の積極的な活用
- 心身ともに健康で豊かな人間性を育むために、命を大切にする教育を推進し、いじめの撲滅を図る。
- 生命を大切にする心や思いやりの心を育む人権教育の充実（ほっとハートキャンペーン）
- いじめ防止対策推進法に基づくいじめ防止の推進・組織づくり
- 情報モラルの育成を図り、インターネットや携帯電話のサイトなどによるネットいじめなどの防止・対策の推進
- インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の推進

(2) 人間関係づくりの推進

心身の健康や社会性を育むために、望ましい人間関係づくりを推進する。相手のよさや自分との違いを理解し、進んで他者と関わろうとする態度を育むため、学級活動や学校行事、異年齢交流活動の充実を図り、互いに心が通い合う学級づくり・集団づくりに努める。特に、幼稚園及び中学校統合が進められる中、望ましい人間関係づくりに重点

的に取り組む必要がある。

- 客観的人間関係を分析するための調査の実施・活用（QUテスト）
- ソーシャルスキルトレーニングの段階的な実施
 - ・小学校段階から、9年間を見通した継続的・発展的な実施
- 小学校における「縦割り活動プロジェクト」の推進

(3) 幼児教育との円滑な接続の推進

今日の教育上の諸課題には、学校間接続に問題があるとの指摘もあり、その適切な接続は不可欠である。本町では、小中一貫教育の視点を生かした子供の育成を共通研究課題としているが、保・幼・小の接続においても、具体的な目標とその達成に向けた手立てを共有し、実践・検証していくことが大切である。

ア 幼稚園・保育所・小学校連携の充実

本町が進める小一貫教育の視点を生かした取組に、幼稚園及び保育所と義務教育の連続した学びを構成することを目指し、幼稚園・保育所も含めた活動を推進する。特に「小1プロブレム」解消をめざした取組の充実を図る。

- 幼・保・小連絡会の取組の充実
- 幼稚園と小学校の教員、幼児と児童の交流の推進

イ 家庭教育・子育て支援の推進

平成27年度の幼稚園統合を機に、より魅力ある幼稚園教育を推進するために、子育て支援の推進・充実を図る。

- 未就園児に対する子育て支援の充実
- 預かり保育の利便性の確保
- 園行事等へ参加しやすい支援体制の整備

(4) 健康教育の推進

子供たちの健康の保持・増進に向けて、小鹿野町給食センターの建設を機に、一層の食育の充実を図りたい。学校保健や体力向上に向けた環境整備とともに、バランスのとれた食事を提供する安心・安全な給食の実施を目指す。また、家庭と連携し、食物アレルギー対策の強化や、食に関する正しい知識と望ましい食習慣の定着を図る。

ア 食育の充実

給食センターとの連携を生かした献立の工夫・充実及び食物アレルギーへの対応、栄養教諭の積極的な活用による食育の推進・充実を図る。

- 地域の食材や郷土食を通じた食文化への理解の推進
- 地域人材の活用による郷土食体験学習の推進
- 望ましい食習慣を身につけるための家庭や地域との連携の推進
- 保護者、地域への食育の啓発

イ 体力向上の取組

- 新体力テストの結果分析等を活用して学校体育活動の充実を図り、計画的・継続的に子供たちの体力向上の取組を推進する。
- 望ましい集団活動を通して心身の健康を育むために、外部指導者の配置など部活動のバックアップ体制の整備・充実を図る。

5 学校の再編整備（教育施設整備グランドデザインの推進）

児童生徒の成長・自立に伴い、計画的に行われる教育指導の中で、子供同士の学び合いや切磋琢磨する態度の育成が重要である。

前述の通り、本町の子供の減少傾向は厳しい状況にある。多面的な発達を促す教育活動の充実には、多くの仲間や多様な教師集団とのふれあいによる面が大きく、学習環境が重要な意味を持つものとなるため、適切な学校の再編を含めた環境整備を進めることとする。

(1) 幼稚園・中学校の統合

平成27年度には幼稚園3園を、平成28年度には中学校4校を統合し、適正規模の学習環境を整備することとした。

(2) 小学校教育の充実

小学校においても児童数は減少傾向にあるが、当面は、小規模校のよさを生かしながら、個に応じた教育の充実に努めていくことが必要である。

これまで、幼稚園・中学校の統合を進めてきたが、今後は、児童の発達段階と地域の特性を生かした特色ある教育活動を推進するとともに、児童数減少に伴う保護者や地域住民の意向の把握に努め、状況に応じて統合も視野に入れていく必要があると考える。

(3) 学校統合に関わる取組

本町では、中学校統合実施計画に基づき、地域住民や保護者代表、教職員代表などを構成員とした「小鹿野町中学校統合準備委員会」を組織し、統合中学校の開設に係る諸課題の具体的な事項の協議・調整を行ってきた。

「小鹿野町中学校統合準備委員会」は、総務部会・教育部会・PTA部会の3部会で構成されており、総務部会では、校名、校章、校旗、校歌、学校経営、事務一般、制服、通学体制等について、教育部会では、合同連携行事、式典、教育課程、学校行事、部活動、施設設備、備品等について、PTA部会では、PTA組織や後援会、学校評議員、学校応援団等について検討を進めている。

統合準備と併せ、教育施設整備グランドデザインに基づいた諸計画を推進し、各施設の改修・改築や中学校武道場及び給食調理場を統合する給食センターの新設など、子供たちのよりよい学習環境・生活環境の整備に向けた取組を推進する。

【資料】教育ビジョンを踏まえた具体的な取組について（解説）

取組のねらい

- ・学力向上を支える家庭の教育力の向上
- ・地域理解に基づく郷土に対する誇り・愛着の醸成
- ・グローバル社会に対応する広い視野の育成
- ・人のために、社会のためにという行動規範の育成

1 「おがの家庭教育宣言」の制定

子供たちの学力向上のベースとなる生活習慣・学習習慣の定着に向けて全校共通の取組目標を設定し、学校と家庭が連携した子供たちの育成を期す。（家庭の教育力向上）

- 「おがの家庭教育宣言」の制定（小鹿野町PTA連合会との連携）
- 家庭・地域の役割を踏まえた「おがの家庭教育宣言」リーフレットの作成
- 各校の実情に応じた発展的な取組に向けたPTA活動の推進
- 各校の取組についての情報交換と成果の共有

2 新たな伝統行事づくり

各学校の行事について、伝統性の再認識と地域・保護者との協働を模索し、「新たな伝統づくり」を進め、地域とのふれあいを深めるとともに、子供たちが学校や地域に対する誇りと愛着を感得するような行事づくりを推進する。

3 ハートコンタクトプログラム

社会体験チャレンジや職場体験・見学などの活動を系統的に再構築し、職業や働くことの意義や厳しさを経験するとともに、地域の人たちとの心のふれあいを深める取組を推進する。

学校を支えてくれる人々や地域に対し、感謝の気持ちを持つとともに、自らの行動で社会貢献できるような取組として、可能な範囲でのボランティア体験活動に取り組む。

また、わたし(私)の志ノートの継続的な活用を通して、心のふれあい体験が自らの夢や志につながる取組を推進する。

4 卒業時英検3級合格者4割

グローバル社会への対応として、語学力（正しい日本語と英語力）の育成は、子供たちの学習や体験を広げるベースになるものである。英検3級は、「中学校卒業程度」の英語力と設定されており、国では5割程度の合格者を想定している。

小学校段階からの意識付けにも留意し、小鹿野町の現状を踏まえて、中学校卒業までに3級以上の合格者4割を目指す。

5 小鹿野ふるさと学習

総合的な学習や教科の学習を通して、歌舞伎などの伝統芸能の継承や小鹿野の歴史、現状などの学習を深め、正しい地域理解とともに、地域のよさに気づき、愛着と誇りを感じ得る体験学習を推進する。

6 ほっとハートキャンペーン

定期的に、子供たちの心がほっとしたり温かくなるような、仲間の言動の「よさ」に気づかせる取組を推進する。子供自身が、仲間の行動に目を向け、仲間の「よさ」を認め、評価するという活動を通して、相互の「よさ」を伸ばすという態度を育み、人の気持ちを大切にしている行動習慣に結びつけたい。